

ブロックを使ってヒジキを増やそう！ ～ヒジキ増殖の取り組み～

【研究のポイント】

近年、漁船漁業の不振や国産ヒジキ需要の急増に伴う価格の高騰などの影響を受けて、ヒジキ漁業への依存度が高まっています。そのため、近年のヒジキの水揚げは、10年前の2.8倍に増大し、ヒジキの乱獲による資源の減少・枯渇が懸念され、ヒジキを持続的に採取できる対策や増殖手法の確立が必要となってきました。

建材ブロックを用いたヒジキの天然採苗は、機材が安価で現場でも簡易に実施できる方法として漁業現場でも既に実践されていますが、天然採苗の際にブロックを入れるタイミングやヒジキブロックを移植する際の設置間隔を決める基礎資料を得るために、ヒジキの成熟調査や幼胚の着生範囲確認試験などの生態調査を行いました。



写真1.
ブロックの設置作業
(国東羽田海岸)



写真2.
設置して8ヶ月後に
取り上げたブロック

【研究の成果】

○成熟時期

建材ブロックは、ヒジキの放卵にあわせて設置する必要があるため、天然採苗予定地の成熟時期を事前に調べるのが重要です。そこで、豊後水道域の上浦、別府湾の日出、周防灘の真玉、国見の4ヶ所でヒジキの成熟時期を調べたところ、同じ大分県内でも県南部の上浦と県北部の国見では2ヶ月程度の違いがあることがわかりました。成熟時期の違いには、水温が関係していることが窺われました。

○幼胚の着生範囲

天然採苗したヒジキブロックを移植する際に、ブロックの間をどれ位離して設置すれば良いかを調べるために、ヒジキ幼胚の着生範囲を確認する現地試験を国東市北江海岸で行いました。その結果、幼胚は母藻から5m離れた距離でも着生しましたが、10個/ブロック以上の濃い着生は、1~2m程度離れた狭い範囲で見られました。他の地区でも同様の調査をして、さらに詳しく調べていきたいと思っています。

○現場での普及状況

建材ブロックを用いた天然採苗は、国東・姫島地区、豊後高田市香々地地区、佐伯市米水津地区などで取り組まれ、国東地区では新規に造成したヒジキの投石漁場において、天然採苗したヒジキブロックの移植効果が確認されています。

表. 大分県沿岸におけるヒジキ成熟時期

場所	生殖 器床	3月		4月		5月		6月		7月		8月	
		1潮目	2潮目	1潮目	2潮目	1潮目	2潮目	1潮目	2潮目	1潮目	2潮目	1潮目	2潮目
上浦	形成	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-
	放卵	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	-
日出	形成	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
	放卵	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+
真玉	形成	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
	放卵	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+
国見	形成	-	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+
	放卵	-	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+	+

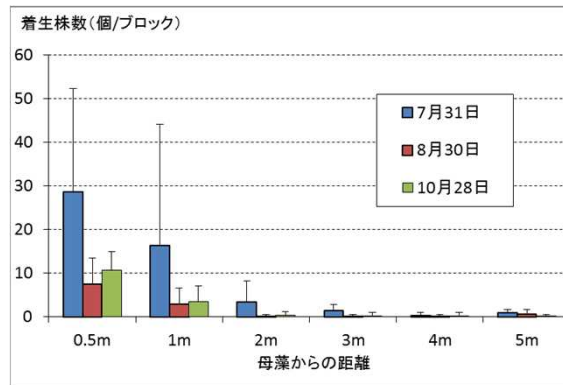


図. ヒジキ母藻からの距離と着生株数の関係

【生産者の声】



研究成果をもとに、青年部活動として3年間ヒジキ増殖活動を続けた結果、国東半島や姫島の各地先で確実に天然採苗出来るようになりました。

天然採苗したヒジキブロックの移植効果も確認でき、今後は規模を拡大してヒジキ増殖事業を展開できるよう漁業後継者や関係機関と協力してヒジキ増殖に取り組んでいきたいと思っています。関係者の皆様、今後ともご協力を御願います。

東国東漁業青年協議会 会長 磯崎信一さん

【連絡先】

担当: 農林水産研究指導センター 水産研究部 浅海・内水面グループ 浅海チーム
TEL :0978-22-2405
住所: 大分県豊後高田市呉崎3386番地